

教科 (科目)	国語 (言語文化)	単位数	2単位	学科 学年	普通科 1年次～
使用教科書	第一学習社『高等学校 新編 言語文化』				
副教材等	大修館書店『トータルサポート新国語便覧』・三省堂『現代新国語辞典 第六版』・実教出版『基礎からの漢字学習 基本編 三訂版』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、日本の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

学習者の多様なニーズを踏まえて、

- ①生涯の楽しみとして言語文化に親しみ、生活に取り入れて実践する態度の醸成を目指します。
- ②現代文 (小説・詩歌) ・古文・漢文の鑑賞や読解を通して、古典から近現代文学へのつながりや、日本の言語文化を学びます。
- ③基礎から始めて鑑賞・読解・表現の実際を知り、手軽に取り組める活動を通して、文化の実践者になることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、日本の言語文化に対する理解を深めている。	・「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いを広げたり深めたりしている。	・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、日本の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

4 評価基準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、日本の言語文化に対する理解を深めている。	・「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いを広げたり深めたりしている。	・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、日本の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査の分析 ・ 学習プリント等提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査の分析 ・ 発表や発言でのとりくみの観察 ・ 学習プリント等提出物の内容の確認 ・ 学習プリント中の振り返り記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 発表や発言でのとりくみの観察 ・ 学習プリント等提出物の内容の確認 ・ 学習プリント中の振り返り記述の分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4～6月 前期中間まで	ガイダンス	1	出雲崎高等学校の国語学習について	・学習の仕方（目標・年間計画・評価について）を確認する。	c	プリント
	俳句	4「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」	俳句「手毬歌」 ○言語活動 俳句を作る、句会	・校地周辺の探索を通して身近な春を探し、記録する。 ・俳句のきまり、取り合わせについて学び、実作する。 ・春の俳句の制作と句会を通して主体的に文化を体験し表現力を養う。 ・春の俳句「鞆嚙ま…」 「春の水…」 「交換日記…」 の鑑賞・解釈をする。	c a b c a b c	プリント プリント 作品 音読 選句 鑑賞文 プリント 鑑賞文 発言・発表
	小説を読む（一）	5「C 読むこと」	内海隆一郎「島の少年―船」 宮下奈都「よるこびの歌」 ○国語辞典の活用	・小説に描かれた話の展開を捉える。 ・登場人物の心情を表現に即して読み取る。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を活用し、語彙を増やす。	a b a b b c a c	プリント プリント プリント 感想 発言・発表 プリント
	古文入門 古文に親しむ	6「C 読むこと」	古文の学習 伊曾保物語「鳩と蟻のこと」 宇治拾遺物語「児のそら寝」 ○古語辞典の使い方	・古典に親しむ意義を知り、言語文化に興味・関心を深める。 ・口語と文語の違いを理解し、古文特有の仮名遣いと言葉に慣れる。 ・内容を口語訳で押さえながら、作品に表れている物の見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	c a b c a b c	プリント プリント 音読 プリント 感想 発言・発表
	前期中間考査	1			a b	
6～9月 前期期末まで	考査復習	1		・解説・覚え直しによって理解を深め、知識を定着させる。	a c	自主学习ノート
	俳句	3「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」	俳句「手毬歌」 ○言語活動 俳句を作る、句会	・歳時記と季語について学び、実作する。 ・夏の俳句の制作と句会を通して主体的に文化を体験し表現力を養う。 ・夏の俳句「万緑の…」 「母の日や…」 「ピストルが…」 「乳母車…」 「金魚掬って…」 の鑑賞・解釈をする。	a b c a b c a b c	プリント 作品 音読 選句 鑑賞文 プリント 鑑賞文 発言・発表
	小説を読む（二）	6「C 読むこと」	芥川龍之介「羅生門」 川上弘美「まねとたね」	・小説に描かれた話の展開を捉える。 ・登場人物の心情を表現に即して読み取る。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を活用し、語彙を増やす。	a b a b b c a c	プリント プリント プリント 感想 発言・発表 プリント
	漢文入門 訓読に親しむ 故事成語	7「C 読むこと」	漢文の学習 訓読に親しむ 返り点 助字 置き字 再読文字 孟子「五十歩百歩」 韓非子「矛盾」 戦国策「狐借虎威」	・古典としての漢文を読む意義を知り、日本の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・漢文訓読の基礎知識として、返り点・助字・再読文字の種類・使い方を習得し、訓読のきまりを理解する。 ・故事成語の由来となった話を積極的に読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりを理解し、使い方を覚える。	c a b c a b c	プリント プリント 音読 プリント 発言・発表
	前期期末考査	1			a b	
9～11月 後期中間まで	考査復習	1		・解説・覚え直しによって理解を深め、知識を定着させる	a c	自主学习ノート
	俳句	3「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」	俳句「手毬歌」 ○言語活動 俳句を作る、句会	・切れ字について学び、実作する。 ・秋の俳句の制作と句会を通して主体的に文化を体験し表現力を養う。 ・秋の俳句「この樹…」 無季非定型俳句「しみじみ…」 「うどん供えへて…」 の鑑賞・解釈をする。	a b c a b c a b c	プリント 作品 音読 選句 鑑賞文 プリント 鑑賞文 発言・発表
	小説を読む（三）	5「C 読むこと」	宮沢賢治「よだかの星」 村上春樹「鏡」 マララ・アスフザイ「わたしはマララ」	・小説に描かれた話の展開を捉える。 ・登場人物の心情を表現に即して読み取る。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を活用し、語彙を増やす。	a b a b b c a c	プリント プリント プリント 感想 発言・発表 プリント
	物語を楽しむ 随筆を読む	7「C 読むこと」	伊勢物語「筒井筒」 徒然草「仁和寺にある法師」 方丈記「安元の大火」 枕草子「はしたなきもの」	・物語や随筆の読み取りを通して、内容や展開、作品に表れる物の見方や考え方を的確に捉える。 ・当時の生活や文化について調べ、古文の世界への興味や親しみを深める。	a b c a b c	プリント 音読 プリント 感想 発言・発表
	後期中間考査	1			a b	

12 ～ 3月 後 期 期 末 ま で	考査復習	1		・解説・覚え直しによって理解を深め、知識を定着させる。	a c	自主学习ノート
	俳句	3「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」「C 読むこと」	俳句「手毬歌」 ○言語活動 俳句を作る、句会、句集を作る	・季語以外の部分からの句作について学び、実作する。 ・冬・新年の俳句の制作と句会、自作の選句と句集作りを通して主体的に文化を体験し表現力を養う。 ・冬・新年の俳句「手毬歌…」「去年今年…」「一湾を…」「月一輪…」「冬深し…」の鑑賞、解釈をする。	a b c a b c a b c	プリント 作品 音読 選句 鑑賞文 プリント 鑑賞文 発言・発表
	短歌 詩の楽しみ	4「C 読むこと」	短歌「大切な言葉」 高村光太郎「道程」 室生犀星「小景異情」 茨木のり子「六月」 吉野弘「I was born」	・近現代を代表する作者の短歌を味わい、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、的確に解釈する。 ・文語で書かれた詩・現代詩・散文詩の鑑賞の仕方を理解し、作品にこめられた作者の思いやイメージを読み取る。	a b c a b c	プリント 感想 発言・発表 プリント 感想 発言・発表
	唐詩の世界 漢詩のきまり	4「C 読むこと」	孟浩然「春暁」李白「静夜思」 王維「送元二使安西」 杜甫「春望」白居易「香炉峰下…」	・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、当時の中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。	a b c	プリント 音読 発言・発表
	万葉・古今・新古今	4「A 話すこと・聞くこと」 「C 読むこと」	万葉・古今・新古今 ○言語活動 百人一首かるた	・調べや修辞技法に留意しながら、和歌の鑑賞の仕方を理解する。 ・百人一首かるたのルールを知り、歌を暗記して、読み手やかるたを体験する。	a b a b c	プリント 鑑賞文 発言・発表 音読や活動の様子
	後期期末考査	1				a b
	考査復習	1		・解説・覚え直しによって理解を深め、知識を定着させる	a c	自主学习ノート

計 70 時間 (50 分授業)

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 15 時間	B「書くこと」 15 時間	C「読むこと」 40 時間
-----------------	-----------------------	------------------	------------------

6 課題・提出物等

- ・学習プリントを毎時間使用し、調べた内容・授業の内容・感想・振り返り等を記入します。単元ごとに提出します。
- ・学習プリントの復習、考査問題の解き直し・覚え直しに取り組み、ノートに記入します。毎考査後に提出します。

7 担当者からの一言

「言語文化」は、近現代の文芸作品や古典文学の鑑賞・読解に親しみ、生涯の楽しみ・自己表現の場として日本の言語文化に親しむための科目です。授業では、基礎から始めて鑑賞・読解・表現の実際を体験し、同時に知識を増やしていきます。手軽に取り組める活動として、句会やかるたを取り入れています。楽しみながら力を伸ばしていきましょう。

教科 (科目)	国語 (現代の国語)	単位数	2単位	学科 学年	普通科 1年次～
使用教科書	第一学習社『高等学校 新編 現代の国語』				
副教材等	大修館書店『トータルサポート新国語便覧』・三省堂『現代新国語辞典 第六版』・実教出版『基礎からの漢字学習 基本編 三訂版』				

1 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、日本の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。</p>

2 指導の重点

<p>学習者の多様なニーズを踏まえて、</p> <p>①基本的な言語事項の習得を重視し、常用漢字の読み書きから検定級取得に向けて、学習に取り組みます。</p> <p>②現代の評論や随筆の読解により思考力・判断力を身に付けるとともに、図書や情報媒体の活用に取り組みます。</p> <p>③生活の中の実用的な文章の読み取りや表現方法を学ぶことで、実社会で必要な力を養います。</p>

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている	・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、日本の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

4 評価基準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている	・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、日本の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査の分析 ・ 学習プリント等提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査の分析 ・ 発表・発言や文章作成等での取り組みの観察 ・ 学習プリント等提出物の内容の確認 ・ 学習プリント中の振り返り記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 発表や発言や文章作成等での取り組みの観察 ・ 学習プリント・自主学習ノート等提出物の内容の確認 ・ 学習プリント中の振り返り記述の分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法	
4～6月 前期中間まで	ガイダンス	1	出雲崎高等学校の国語学習について	・学習の仕方（目標・年間計画・評価について）を確認する。	c	プリント	
	図書館指導	1「C 読むこと」	資料編 読書のしるべ 図書館での本の探し方	・読書の意義と効用を理解する。 ・教材のテーマやキーワードから、また、自己の生活や目標から、積極的に興味・関心を広げ、関連する書籍を読むようとしている。	a c	プリント 読書の記録	
	新しい出会い	5「B 書くこと」「C 読むこと」	理解編 『未知』はいくらでもある 宮内悠介 「ナマケモノになる」辻信一 ○国語辞典の活用	・実体験を踏まえて提示された筆者の考え方を理解し、自分に照らして考えを深める。 ・内容・構成・論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章を読み、自分の意見や考えを論述・発表する。 ・常用漢字を活用し、語彙を豊かにする。	b c b c b c a c	プリント 発言・発表 プリント	
	話して伝える	6「A 話すこと・聞くこと」	表現編 「話し方の工夫」	・話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・相手・目的・場面に応じた言葉づかひを理解する。 ・相手により伝わりやすい表現方法を理解する。 ・理解した表現方法を積極的に生かし、課題に沿って使おうとしている。	a b b c	プリント プリント プリント プリント	
	書いて伝える	4「B 書くこと」	表現編 「書き方の基礎レッスン 表記・表現の基本ルール」	・漢字学習について目標を設定し、検定級取得に向けて学習する。	a c	自主学習ノート	
	前期中間考査	1				a b	
6～9月 前期期末まで	考査復習	1		・解説・覚え直しによって理解を深め、知識を定着させる。	a c	自主学習ノート	
	言葉が開く世界	5「B 書くこと」「C 読むこと」	理解編 「言語としてのピクトグラム」本田弘之 「言葉の海のオノマトペ」清水由美	・言語や表現手段の機能を理解し、表現の多様性について考えを深める。 ・内容・構成・論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章を読み、自分の意見や考えを論述・発表する。 ・常用漢字を活用し、語彙を豊かにする。	b b c a c a c	プリント プリント プリント 意見文 発言・発表 プリント	
	話して伝える	5「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」	表現編 「待遇表現」 「論理的な表現」	・敬語表現を意識した言葉遣いと、使われる視点を理解する。 ・理解した表現方法を積極的に生かし、課題に沿って使おうとしている。 ・論理的に表現するための主張と理由の関係や、説得力のある表現について理解する。 ・理解した表現方法を積極的に生かし、課題に沿って使おうとしている。	a b c a b c	プリント プリント 発言・発表 プリント プリント 発言・発表	
	書いて伝える	3「B 書くこと」	表現編 「実用的な手紙文の書き方」	・実用的な手紙文として、暑中見舞いはがきの書き方を理解し、実践する。 ・例を参考に、表現を工夫して、積極的に書こうとしている。	b c	プリント・はがき 取り組みの観察	
	書いて伝える	3「B 書くこと」	表現編 「書き方の基礎レッスン 表記・表現の基本ルール」	・漢字学習について目標を設定し、検定級取得に向けて学習する。	a c	自主学習ノート	
	前期期末考査	1				a b	
	考査復習	1			・解説・覚え直しによって理解を深め、知識を定着させる	a c	自主学習ノート
9～11月 後期中間まで	人間の風景	6「B 書くこと」「C 読むこと」	理解編 「十六歳のとき」星野道夫 「臆病な詩人、街へ出る」文月悠光	・他者との関わりを通して省みる姿に触れ、自身を見つめ直す契機とする。 ・内容・構成・論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章を読み、自分の意見や考えを論述・発表する。 ・常用漢字を活用し、語彙を豊かにする。	b b c b c a c	プリント プリント プリント 発言・発表 プリント	
	書いて伝える	6「B 書くこと」	表現編 「地域の魅力を紹介する」 「社会に対する意見文を書く」	・必要な情報を収集・整理し、紹介文に生かす方法を理解する。 ・意見文について理解し自分の経験の中から意見を導き出せるようになる。 ・例を参考に、表現を工夫して、積極的に書こうとしている。	a b b c	プリント プリント 意見文 取り組みの観察	
	書いて伝える	3「B 書くこと」	表現編 「書き方の基礎レッスン 表記・表現の基本ルール」	・漢字学習について目標を設定し、検定級取得に向けて学習する。	a c	自主学習ノート	
	後期中間考査	1				a b	

12 ～ 3月 後期期末まで	考査復習	1		・解説・覚え直しによって理解を深め、知識を定着させる。	a c	自主学习ノート
	社会と人間	5「B 書くこと」 「C 読むこと」	理解編 「『弱いロボット』の誕生」 岡田美智男 「人はなぜ仕事をするのか」 内田樹	・筆者の考えを理解し、学習後の自分の考えの変化・技術や経済と人との関係性について考えを深める。 ・内容・構成・論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章を読み、自分の意見や考えを論述・発表する。 ・常用漢字を活用し、語彙を豊かにする。	b b c b c a c	プリント プリント プリント 発言・発表 プリント
	現代と社会	5「B 書くこと」 「C 読むこと」	理解編 「イースター島になぜ森がないのか」 鷲谷いづみ 「『材料化学』のゆくえ」 佐藤健太郎	・現代的な課題について理解し、筆者の問題意識をふまえて考えを深める。 ・内容・構成・論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章を読み、自分の意見や考えを論述・発表する。 ・常用漢字を活用し、語彙を豊かにする。	b b c b c a c	プリント プリント プリント 発言・発表 プリント
	話して伝える	2「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」(情報の扱い方)	表現編 「情報の探索と選択」 「情報源の明示」	・必要な情報を探す方法、情報の信頼性や妥当性の吟味の仕方を理解する。 ・情報の探索と選択を実践できるようになる。 ・引用の目的・効用・具体的方法を理解し、活用できるようになる。 ・理解した方法を積極的に生かし、課題に沿って使おうとしている。	a b b a b c	プリント 取り組みの観察 プリント 取り組みの観察
	書いて伝える	3「B 書くこと」	表現編 「実用的な手紙文の書き方」	・実用的な手紙文として、年賀はがき・寒中見舞いの書き方を理解し、実践する。 ・例を参考に、表現を工夫して、積極的に書こうとしている。	b c	プリント・はがき 取り組みの観察
	後期期末考査	1				a b
	考査復習	1		・解説・覚え直しによって理解を深め、知識を定着させる	a c	自主学习ノート

計 70 時間 (50 分授業)

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 20 時間	B「書くこと」 25 時間	C「読むこと」 25 時間
-----------------	-----------------------	------------------	------------------

6 課題・提出物等

- ・学習プリントを毎時間使用し、調べた内容・授業の内容・感想・振り返り等を記入します。単元ごとに提出します。
- ・学習プリントの復習、考査問題の解き直し・覚え直し、漢字検定の学習に取り組み、自主学习ノートに記入します。毎考査前後に提出します。

7 担当者からの一言

「現代の国語」は、生きていくための言葉を身に付ける科目です。
読書・はがき作成など、取り組みやすい活動も取り入れながら、読解力や表現力、実用的な言葉の力を身に付けます。
「社会で通用する漢字力」・「履歴書に書ける検定級取得」など、各自で目標を設定して、授業の中で漢字や言葉の力をつけていくことができます。
言葉を使いこなせたら、いろいろなことができますよ。楽しみながら、一緒に力をつけていきましょう。